

「たまゆら～卒業写真～」第1部 芽-きざし- 4月4日上映開始記念創刊

SUPER MYSTERY
MAGAZINE
MUyA

竹原の謎と不思議に
挑戦する

No.001
4月**1**日



UFO | 超能力 | UMA
奇現象 | 古代文明 | 神秘
スピリチュアル | 都市伝説

実在した
ももね様は
竹原の守り神

猫か? UMAか?

総力特集

竹原七不思議

雨乞い師の末裔!?
「たまゆら」プロデューサー
T氏の謎

呪いのお好み焼き人形の怪異
最新パワースポット竹原効果!?
「たまゆら」関係者が続々結婚

別冊
スペシャル
付録

恋愛運
結婚運!!

竹原の竹



特別定価

000YEN
(税込)



猫か？UMAか？

竹原の守り神 「ももねこ様」は 実在したか？

アニメ「たまゆら」シリーズに登場するキャラクター「ももねこ様」。ピンク色の雄の猫とされているが、その容姿や俊敏さ神出鬼没さは本当に猫なのか謎が残る点である。しかし、それはあくまでアニメの中での設定であり、そんなキャラクターが登場すること自体は何ら不思議なことではない。だがそんな中、編集部に一本の電話が……。内容は「ももねこ様」を竹原の町で目撃したというものだった。はたして、「ももねこ様」は実在するのか？その正体は？



↑「たまゆら～hitotose～」第9話に登場する「ももねこ様」。猫といわれれば猫に見えるが……。

目撃者の証言

取材班は竹原に飛び目撃者を訪ね、話を伺うことに成功した。

目撃者は竹原市内で飲食店を経営する堀川大輔氏。



▶目撃者の堀川氏

堀川氏はゆっくりと語り始めた。

「ここ竹原では『たまゆら』が始まってから観光客が増えたことに感謝し、ももねこ様を神様のように敬っているんです。」

竹原の町では毎年、五穀豊穰・商売繁盛の祈りを「ももねこ様」に捧げる「ももねこ様祭」が執り行われている。「竹原駅前商店街には、ももねこ様の石像も置かれてまして、私も毎日のようにお参りしているんです。その日も「ももねこ様」にお参りしていたのですが、少しだけ石像の様子がいつもと違っていった気がしました。たまたま、通りがかった観光客の方がお参りしている私を撮影してくださったのですが、これがその時の写真です。」



↑「ももねこ様」を目撃した時の状況を細かく説明する堀川氏

そういつて、堀川氏は私たちの前に一枚の写真を取り出した。写真を見せながら堀川氏は淡々と話を続ける。

「お参りをして、目を開けると目の前にはいつものももねこ様の石像がなくなっていたんです。ふと横を見るとかなりのスピードで走っていく、ももねこ様の後ろ姿が見えました。その時、初めて気が付いたんです。本来なら色がついていないはずの石像が、その日はピンク色だったことに……。」

その一言を聞いて取材班は息をのんだ。確かに堀川氏がお参りをしている写真の石像は石の色ではなく、ピンク色をしていた。しかも、少しだけいつもと向いている方角が違っていた。毎日お参りを続けている堀川氏だからこそ、違和感を持つことが出来たが他の人ならば気にも留めなかつただろう。



↑左がももねこ様の石像にお参りする堀川氏、右が通常のももねこ様像。見比べても特に不思議な点は無いようだが…

ももねこ様を追跡

堀川氏の証言によると、ももねこ様は町並み保存地区の方に向かったらしい。

アニメのキャラクターであるはずの「ももねこ様」が実在するのだろうか？疑問を抱きながらも取材班は町並み保存地区に向かった。街並み保存地区に到着すると、カメラを所持した多数の人々が町を訪れている。

保存地区の住民に聞くと、どうやら2014年の10月ごろから訪問者が増えたらしい。堀川氏が「ももねこ様」と遭遇した日付とも一致することを考えると、UMAハンターや調査隊が大挙していると考えて間違いないだろう。



↑町並み保存地区でとらえた「ももねこ様」。フレてしまったことが悔やまれる

彼らよりも先に「ももねこ様」を見つけ出さなければ。

そう考えながらも情報は堀川氏の証言のみ。途方に暮れ人垣を掻き分けながら進むと、路地裏にピンク色の影が。我々は急いで写真のシャッターを切るが、その瞬間横から歩いてきた団体に妨害を受け、写真はブレてしまった。体勢を立て直すも、すでに「ももねこ様」の姿はそこには無い……。

妨害を行った彼らがしきりに言葉にしている「MASSAN」は「Mysterious Animals Search and Security Association Nippon = 不思議動物探索警備協会日本支部」の事だ。

「ももねこ様」が人々に知られることを警戒しているらしい。これ以上の取材は危険を伴うが真実を求めるために取材は決行した。



↑町並み保存地区に集う人々



遂にももねこ様に遭遇!

町並み保存地区を後にした取材班は、「ももねこ様」の出現場所に、ある法則を発見した。

堀川氏が遭遇した駅前商店街、我々が出会った町並み保存地区。2か所に共通する点。それはアニメ「たまゆら」の中で「ももねこ様」が登場する場所だ。早速、取材班はWEBの検索で「ももねこ様」と入力。上がってきた画像を精査すると一枚の特徴的な場面



↑「たまゆら」ファンになじみ深いシーン
(画像協力:松竹)

が。それは竹原の名産であるタケノコをモチーフにした車止めに「ももねこ様」が背中をこすりつけているシーン「たまゆら」hitotosei」の第2話に登場するこのシーンは、「たまゆら」ファンの間でも有名なシーン。「ももねこ様」はこの場所に

必ず居るだろう。そう確信した取材班は一路タケノコの車止めへ。

慣れない竹原の地理に悪戦苦闘しながら数時間。ついにタケノコの車止めにたどり着いた取材班。町並み保存地区ほどではないが、この辺りでも「MASSAN」のメンバーがこちらの様子を窺っている。その動向に警戒しながら「ももねこ様」を探すこと数十秒、ついに「ももねこ様」を発見することに成功。取材班が恐る恐るカメラを向けると、一瞬動きを止めたが、再び車止めに背中を擦り付け始めた。どうやら、取材班は「ももねこ様」に受け入れられたようだ。そして、撮影に成功した写真がこちら。



↑アニメ「たまゆら」と寸分たがわぬ構図。まるで、この場面を見てアニメを描いたかのようだ…。

ももねこ様の真実

写真を撮り続ける取材班だが、何枚か写真を撮っているときに急に「ももねこ様」は立ち上がり、走り出してしまった。何か怒らせるようなことをしてしまったのだろうか。呆然と立ち尽くす取材班だったが、走り出した「ももねこ様」が一瞬立ち止まり、こちらを振り返る。これはついて来いという合図だろうか。確信は持てないが、走る「ももねこ様」の後を車で追いかけることにした。10分ほど走るとタケノコ畑のようなところで立ち止まっている「ももねこ」の姿が。

あたりには不穏な空気が流れ、緊張しながら車を降りる取材班の目の前に巨大なイノシシ



→見るからに凶暴なイノシシ、ももねこ様は勝てるのだろうか？



←イノシシが振り下ろす拳を受け止め、アッパーを繰り出すももねこ様



が現れた。どうやらタケノコ畑を荒らしているらしい。そのことに気が付いた「ももねこ様」はイノシシを倒すためタケノコ畑にやってきたようだ。お互いに睨み合いながら間合いを詰める「ももねこ様」とイノシシ。取材班は固唾を呑みながらもカメラのシャッターを押す。カシャとシャッター音が竹林に響いた次の瞬間、イノシシが拳を振り下ろす。それを受け止めた「ももねこ様」はもう一方の手でガラ空きイノシシの顎に渾身のアッパーを炸裂させる。

右ひざをつき、崩れ落ちるイノシシ。どうやら勝負は決したようだ。お互いの健闘を称えあい握手を交わすと、イノシシは山の中へ消えていった。



もうタケノコ畑を荒らすことも無いだろう。目の前で起きたことが、信じられないでいる取材班だったが、このとき大事なことを思い出す。この場面は「たまゆら〜hitotosei〜」の第9話のエピソードそのままではないか。

▶アニメ「たまゆら」の中でもイノシシとの対決が描かれている
(画像協力：松竹)

遂に取材班は「ももねこ様」の真実にたどり着いた。タケノコの車止め、イノシシとの対決などアニメのシーンと同じことが起きているのというのは勘違いであり、「たまゆら」という作品自体が、実在する「ももねこ様」を後世に伝えるために描いた作品だったのだ。竹原の町や人々を守り続けたきた「ももねこ様」。彼の存在は「たまゆら」という作品の中で、永遠に語り継がれていくことになるだろう。

ももねこ様、
永遠に

